

ご 挨拶

鹿児島県歯科医師会会長 四 元 貢

鹿児島大学歯学部創立30周年記念おめでとう御座います。

このようなおめでたい事業に鹿児島県歯科医師会を代表し、挨拶をいたします機会を与えていただき、誠に有難う御座います。鹿児島県歯科医師会年譜によりますと、貴学部は昭和51年5月に「歯学部創設準備室を医学部内に設置」と大きな見出しで記されております。そしてそのサブタイトルといたしまして「僻地歯科医療に曙光」とあります。当時、どれほどまで南九州・沖縄地区が歯学部の誕生を喜んでいたか良く分かります。

当時の思い出といたしましては、歯学部創設準備室ができるまでは金丸県知事の時代で、知事が親しくされておりました当時の奥野誠亮文部大臣が来鹿され、文部大臣、知事、鹿大中村末男学長がお会いになり鹿児島大学に歯学部創設の件が話題に出たのこのことを関係者から、お聞きして喜んだことがあります。

社会的な背景といたしましては、当時は70歳以上の老人医療費は無料になり、日本国家の医療福祉が充実し始めた時代でした。先発の他県より早く創設準備室ができましたことは、関係者の熱意が通じたものと思えます。南九州・沖縄地区におきましては歯科医学教育の拠点がなく、多くのものが県外に歯科教育を求めるのが当然のことで御座いました。

しかし、鹿児島の西洋医学、殊に歯学教育においては忘れてはならないことは鹿児島大学鶴陵会館内や鹿児島県医師会館内に顕彰碑がありますウィリアム・ウイリスの存在だと思えます。旧県庁跡より海岸の方へ下り鹿児島駅に近い小川町滑川の赤レンガの赤倉病院(赤倉病院跡の石碑あり)で、ウイリスは英国式西洋医学を導入して診療・医学教育に当り、鹿児島に近代西洋医学の基礎を築きました。その当時使用された抜歯鉗子やヘーベル等歯科用器具が残されていますが、

現在のものと殆ど変わりません。ウイリスは戊辰戦争の折、薩摩藩の戦傷者の処置を手際よく行い西郷隆盛に大いに感謝され、破格の報酬で鹿児島に招聘されました。鹿児島での滞在は6年足らずでしたが、この間、治療のみならず妊産婦検診、温泉療法、海水浴の効用、健康・体力づくり、食糧・栄養問題や、上下水道完備の必要性の提言など予防医学、公衆衛生面でも大きく貢献されたといわれております。

さらに、時代は遡りますが琉球医学史学によりますと中国で補唇術を学んだ高嶺徳明は、1689年5月に琉球に帰国し、薩摩藩士・医である伊佐敷道與にその術を伝授し、道與はその術を薩摩藩の高貴な方に施した記録があり、その主旨は高嶺家に現存する「魏氏家譜」に基づいているといわれております。この記録は、現在も薩摩川内市川内歴史資料館に保存されております。徳明の補唇術が全身麻酔下で行われたとされていますが、もし徳明の全身麻酔が事実とすればこれは華岡青州の全身麻酔に先立つこと百余年前のことで御座います。

このような背景を持つ鹿児島の地に歯学部が開設されるということは、県民は勿論のこと南九州・沖縄地区にとりまして悲願でした。

開設以来、貴学部におかれましてはマスタープランに「地域歯科医療の推進」を掲げていただき、開設時の地域住民が望みました「僻地歯科医療に曙光」ともして続けていただいております。また更に、鹿児島県歯科医師会とも良好な関係を続けていただき、開かれた大学として開業医に対して非常に出入りしやすい学部で御座います。

鹿児島県歯科医師会の執行に当たりまして、鹿児島大学歯学部の卒業生の方々は各方面で活躍いただいております。今後も、鹿児島大学歯学部のますますのご発展を衷心よりお祈り申し上げ、挨拶といたします。